

## 長期戦略:テーマ 「国際化の推進」

担当部署

## Ⅱ.実施計画帳票

構想調書 1(4)④

長期戦略テーマの責任者 (統轄部署)	学長 (総合企画部)	実施計画の 担当部署	教務機構(TF 英語教育)
-----------------------	---------------	---------------	---------------

## 1. 実施計画

実施計画(タイトル)		取組開始	達成状況 確認年度	学部・研究科での 取組み有/無	帳票
1-(6)-⑰ (SGU2-5-1)	(SGU2-5-1) 英語教育の飛躍的充実	2014年度	2023年度	必要【必須型】	要
<b>内容</b>					
【目的】 学生の英語力向上に向けて英語教育の飛躍的充実を図ることによって、SGU 構想に目標として定めた「TOEFL-ITPスコアで一定の基準を満たす学生数 2000 人」および「協定校への派遣数 2500 人」の達成を目指す。					
英語教育に関わる各施策を相互に連動させ、全学生の英語運用能力の底上げと本学の英語教育の見直しおよび更なる充実を図る。					
新入生に対し、入学前プレースメントテストを実施することで、1年生春学期からの習熟度別クラスの実施を徹底する。全学部において学生一人ひとりのレベルに応じた英語教育を提供することで、入学初年次より効果的に英語運用能力を向上させる。また、学生の英語力の伸びと教育効果を経年で測定するため、全学部生を対象に、アチーブメントテストを入学後に2回実施する。さらに、「聞く・話す・読む・書く」の4技能における実践的な英語運用能力を養成するため、情報機器を活用した英語教育を行い、そのために必須となる授業環境の整備を継続的に行う。加えて、スコアアップ対策として、e-learning 教材の導入および TOEFL/TOEIC対策の実施により、学生が在学期間中を通して英語学習を継続できる環境を整える。					
本施策全体のチェック機関として、全学で英語教育を検討するFDの体制を確立する。プレースメントテストやアチーブメントテストのスコアや習熟度別クラスの実施状況など、各施策の実施結果を総合的に検証・分析した上で、英語教育全体の実施計画の見直しを行っていく。					
【内容】					
①プレースメントテスト・アチーブメントテストの全学実施 学生の英語力を全学で統一的に把握するため、全学部でプレースメントテストおよびアチーブメントテストを実施する。1年生春学期からの習熟度別クラスを徹底するため、入学前のオンラインによるプレースメントテストを導入するとともに、現在実施している全学 TOEIC をアチーブメントテストとして位置づけ、全学で同一の時期に実施し学生の到達度を統一的に測り、英語教育のFDにも活用する。					
②習熟度別クラスの徹底 本学では、必修英語科目を学部および言語教育研究センターが担っており、言語教育研究センターでは、2015年度のカリキュラム改編から主に英語力上位層向けに、きめ細かな習熟度別クラスを導入している(インテンシブ・イングリッシュ・コース)。学部においても、上記プレースメントテストの全学実施を活用し、1年生春学期からの習熟度別クラス編成をすることにより個々の学生の英語力に合わせた英語教育を徹底する。また、英語力低レベル層向けクラスを全学開講することにより、一定のカリキュラムで低レベル層の					

英語力向上を集中的に支援するとともに、上位(センター)、中間(学部)、下位(センター)と教育のアプローチの異なる層をまとめることにより、英語力に合わせたきめ細やかなカリキュラム設計を行い、教育効果を高める。

### ③情報機器を利用した授業環境の整備

GGJの施策において、言語教育研究センターでは、PC等の情報機器を活用し、実践的な英語運用能力の養成を推進してきた。さらに拡充する英語教育を支え、今後も安定的に授業を提供するため、必須となる情報機器等の整備を行う。これにより、授業用のe-learning教材やLUNA等の活用を推進し、「聞く・話す・読む・書く」の4技能における実践的な英語運用能力を養成する。特に、留学でも必須となるPCを使用したライティング力の向上が期待できる。

### ④e-learning教材活用の促進およびTOEFL/TOEIC対策講座等の実施

在学期間中、学生に継続的な英語学習環境を提供し、授業時間外での自主学習を促すため、e-learning教材の活用を推進する。また、必修英語科目等での学習を活かしてスコアアップを目指せるよう、学内の各プログラムを整理し、効果的な対策講座等を提供する。さらに、言語教育研究センター開講のTOEFL/TOEIC/IELTSに対応した科目の充実を図り、学生の履修を促す。

### ⑤TOEFL-ITP試験の受験機会の設定

海外留学プログラムへの学生参加を推進するため、学生の申込において必要となるTOEFL-ITPの受験機会を希望者対象として設定する。

### ⑥全学的な英語教育のためのFD実施

「全学英語教育FD部会」を設置し、各学部等および言語教育研究センターにおける英語教育の取り組みや課題について共有することで、全学として英語教育の充実を図る。また、プレースメントテストおよびアチーブメントテストのスコアデータを全学で共有し、分析・検証を行い、学生の英語運用能力向上のための施策を検討する。

進捗状況を測る指標	指標名	定義・算式
指標1	1(4)④ 学生の語学レベルの測定・把握、向上のための取組	外国語力基準を満たす学生数 うち学部（毎年度3月31日時点） (外国語力基準:GGJの基準を継続し、国際学部はTOEFL550点、文・総合政策学部はTOEFL540点、その他の学部はTOEFL520点とする)
指標2	1(4)④ 学生の語学レベルの測定・把握、向上のための取組	外国語力基準を満たす学生数 うち大学院（毎年度3月31日時点） (外国語力基準:英語のみで修了できるコースの入学基準に準拠)

## 目標1&lt;指標1&gt;1(4)④学生の語学レベルの測定・把握、向上のための取組 外国語力基準を満たす学生数(学部)

	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
目標	—	—	1100人	—	—	1500人
実績	1151人	1231人	1308人	1778人	2193人	2503人
	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度以降	—
目標	—	—	—	2000人		
実績	2987人	3323人				

## 目標2&lt;指標2&gt;1(4)④学生の語学レベルの測定・把握、向上のための取組 外国語力基準を満たす学生数(大学院)

	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
目標	—	—	47人	—	—	55人
実績	45人	61人	73人	90人	88人	100人
	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度以降	—
目標	—	—	—	63人		
実績	103人	113人				

## 2. 実施計画:ロードマップ

		2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
①-1 プレースメントテストの全学実施	策定段階					
	2023年3月末段階		(SGU2-5-3 施策と連動) プレースメントテストの検討	(SGU2-5-3 施策と連動) 全学でのプレースメント テスト実施	(SGU2-5-3 施策と連動) 全学でのプレースメント テスト実施	(SGU2-5-3 施策と連動) 全学でのプレースメント テスト実施
		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	策定段階					
	2023年3月末段階	(SGU2-5-3 施策と連動) 全学でのプレースメント テスト実施	(SGU2-5-3 施策と連動) 全学でのプレースメント テスト実施	(SGU2-5-3 施策と連動) 全学でのプレースメント テスト実施	(SGU2-5-3 施策と連動) 全学でのプレースメント テスト実施	(SGU2-5-3 施策と連動) 全学でのプレースメント テスト実施
		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	—
策定段階						
2023年3月末段階						

		2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
①-2 アチーブメントテストの全学実施	策定段階					
	2023年3月末段階		1年生(総政・国際以外)・3年生(経済・総政以外)対象 TOEIC実施(GGJ予算)	1年生(総政・国際以外)・3年生(経済・総政以外)対象 TOEIC実施(GGJ予算)	1年生(総政以外)・3年生(経済・総政以外)対象 TOEIC実施	1～3年生(全学部)対象実施
		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	策定段階					
	2023年3月末段階	1～3年生(全学部)対象実施	全学部1～2年生対象(国際学部のみ3年生対象)実施	全学部1～2年生対象(国際学部のみ3年生対象)実施	全学部1～2年生対象(国際学部のみ3年生対象)実施	全学部1～2年生対象(国際学部のみ3年生対象)実施
		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	—
策定段階						
2023年3月末段階						
		2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
②習熟度別クラスの徹底	策定段階					
	2023年3月末段階			全学リメディアルクラスカリキュラム検討	全学リメディアルクラス開講	全学リメディアルクラス開講
		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	策定段階					
	2023年3月末段階	全学リメディアルクラス開講	全学リメディアルクラス開講	全学リメディアルクラス開講	全学リメディアルクラス開講	全学リメディアルクラス開講
		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	—
策定段階						
2023年3月末段階						

		2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
③ 情報機器の整備	策定段階					
	2023年3月末段階		GGJ終了後の機器更新 検討・調整	情報機器を活用した 授業実施	情報機器を活用した 授業実施	秋学期 教研PC リプレイス 情報機器を活用した 授業実施
		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	策定段階					
	2023年3月末段階	情報機器を活用した 授業実施	情報機器を活用した 授業実施	情報機器を活用した 授業実施	秋学期 教研PC リプレイス 情報機器を活用した 授業実施	情報機器を活用した 授業実施
		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	—
策定段階						
2023年3月末段階						
		2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
④-1 e-learning 教材の 導入	策定段階					
	2023年3月末段階		次期導入教材検討	e-learning 教材導入	e-learning 教材 利用状況検証	e-learning 教材を 活用した授業実施
		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	策定段階					
	2023年3月末段階	e-learning 教材を 活用した授業実施	e-learning 教材を 活用した授業実施	e-learning 教材を 活用した授業実施	e-learning 教材を 活用した授業実施	e-learning 教材を 活用した授業実施
		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	—
策定段階						
2023年3月末段階						

		2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
④-2 TOEFL/TOEIC 対策講座	策定段階 2023年3月 末段階			(SGU2-1-3 施策と連動) TOEFL/TOEIC 対策講座 整理・検討	(SGU2-1-3 施策と連動) TOEFL/TOEIC 対策講座 整理・検討	(SGU2-1-3 施策と連動) TOEFL 対策講座 実施・検討
		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	策定段階 2023年3月 末段階	(SGU2-1-3 施策と連動) TOEFL 対策講座 実施・検討	(SGU2-1-3 施策と連動) TOEFL 対策講座 実施・検討	(SGU2-1-3 施策と連動) TOEFL 対策講座 実施・検討	(SGU2-1-3 施策と連動) TOEFL 対策講座 実施・検討	(SGU2-1-3 施策と連動) TOEFL 対策講座 実施
		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	—
	策定段階 2023年3月 末段階					
		2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
⑤TOEFL-ITP の実施	策定段階 2023年3月 末段階		TOEFL-ITP 実施検討	TOEFL-ITP 実施	TOEFL-ITP 実施	TOEFL-ITP 実施
		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	策定段階 2023年3月 末段階	TOEFL-ITP 実施	TOEFL-ITP 実施	TOEFL-ITP 実施	TOEFL-ITP 実施	TOEFL-ITP 実施
		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	—
	策定段階 2023年3月 末段階					
		2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
⑥FD実施	策定段階 2023年3月 末段階			FD委員会設置検討・設置	FD委員会実施	FD委員会実施
		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	策定段階 2023年3月 末段階	FD委員会実施	FD委員会実施	FD委員会実施	FD委員会実施	FD委員会実施
		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	—
	策定段階 2023年3月 末段階					
		2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度

## 3. 実施計画:費用計画・人員計画

【費用・人員を必要とする理由】						
非公開						
経費	2014年度承認	2015年度承認	2016年度承認	2017年度承認	2018年度承認	2019年度承認
非公開						
人員・人件費	2014年度承認	2015年度承認	2016年度承認	2017年度承認	2018年度承認	2019年度承認
非公開						
経費	2020年度承認	2021年度承認	2022年度承認	2023年度承認	2024年度以降	
非公開						
人員・人件費	2020年度承認	2021年度承認	2022年度承認	2023年度承認	2024年度以降	
非公開						

## 4. 進捗状況・得られた成果

2016 年度	<p>■1(4)④ ※学生の語学レベルの測定・把握、向上のための取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2017 年度新入生を対象に、総合政策学部を除く 10 学部において入学前プレースメントテストとして GTEC を導入し、全学部において習熟度別クラス編成を実施した。</li> <li>・全学英語リメディアルクラスの設置を提案し、2017 年度より5学部(神・法・経済・商・理工学部)において、英語力下位層を対象とした英語科目を開講することが承認された。</li> <li>・2017 年度に「全学英語教育FD部会」を設置することが承認された。</li> <li>・TOEFL-ITP の無料受験を実施した。</li> </ul>
2017 年度	<p>■1(4)④ ※学生の語学レベルの測定・把握、向上のための取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2018 年度新入生を対象に、総合政策学部を除く10学部において入学前プレースメントテストとして GTEC の受験を課し、全学部において習熟度別クラス編成を実施した。</li> <li>・全学的なアチーブメントテストを複数学年に跨り実施した。2017 年度より国際学部の1年生が全学 TOEIC に加わり、全学 TOEIC としては、総合政策学部を除く1年生、および経済学部・総合政策学部を除く3年生を対象とすることとなった。また、経済学部では独自に2年生対象の TOEIC を実施し、同様に総合政策学部では独自に1年生・2年生対象の TOEFL ITP を実施した。</li> <li>・全学英語リメディアルクラスとして、5学部(神・法・経済・商・理工学部)において、春学期に入門英語 IAを10クラス、入門英語 IBを10クラス、秋学期に入門英語 IAを10クラス、入門英語 IBを10クラスの計40クラスを開講し、計207名(神:7名、法:66名、経:72名、商:39名、理:23名)が履修した。</li> <li>・社会学部の 2018 年度からの入門英語への参画が承認された。</li> <li>・全学英語教育FD部会を12月7日と3月9日の計2回開催し、各学部の英語教育に関する情報共有、および全学TOEICの3年生受験率向上の施策について検討を行った。</li> <li>・TOEFL-ITP の無料受験を実施し、1399名の申込みを受け、733名が受験した。</li> </ul>
2018 年度	<p>■1(4)④ ※学生の語学レベルの測定・把握、向上のための取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2019 年度新入生を対象に、総合政策学部を除く10学部において入学前プレースメントテストとして GTEC の受験を課し、全学部において習熟度別クラス編成を実施した。</li> <li>・全学的なアチーブメントテストを複数学年に跨り実施した。全学 TOEIC としては、総合政策学部を除く1年生、および経済学部・総合政策学部を除く3年生を対象に実施した。また、経済学部では独自に2年生対象の TOEIC を実施し、同様に総合政策学部では独自に1年生・2年生対象の TOEFL ITP を実施した。</li> <li>・全学英語リメディアルクラスとして、6学部(神・社会・法・経済・商・理工学部)において、春学期・秋学期それぞれ、入門英語 IA×10クラス、入門英語 IB×10クラス、入門英語 IIA×10クラス、入門英語 IIB×10クラス(年間計80クラス)を開講し、計410名(神:8名、社:50名、法:119名、経:124名、商:66名、理:43名)が履修した。</li> <li>・全学英語教育FD部会を6月7日、6月27日、12月11日、3月14日の計4回開催し、各学部の英語教育に関する情報共有、および入門英語の成果検証方法の検討を行った。</li> <li>・TOEFL ITP の無料受験を6月10日、11月10日の計2回実施し、1081名の申込みを受け、977名が受験した。</li> </ul>
2019 年度	<p>■1(4)④ ※学生の語学レベルの測定・把握、向上のための取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2020 年度新入生を対象に、総合政策学部を除く10学部において入学前プレースメントテストとして GTEC の受験を課し、全学部において習熟度別クラス編成を実施した。</li> <li>・全学的なアチーブメントテストを複数学年に跨り実施した。全学 TOEIC としては、総合政策学部を除く1年生、総合政策学部と国際学部を除く2年生、および経済学部・総合政策学部を除く3年生を対象に実施した。また、総合政策学部では独自に1年生・2年生対象の TOEFL ITP を実施した。</li> <li>・全学英語リメディアルクラスとして、6学部(神・社会・法・経済・商・理工学部)において、春学期・秋学期それぞれ、入門英語 IA×10クラス、入門英語 IB×10クラス、入門英語 IIA×10クラス、入門英語 IIB×10クラス(年間計80クラス)を開講し、計439名(神:12名、社:59、法:136名、経:121名、商:63名、理:48名)が履修した。</li> </ul>



	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全学英語教育FD部会を6月6日、9月18日の計2回開催し、各学部の英語教育に関する情報共有、および入門英語成果検証を目的としたアンケート(入門英語導入学部の英語科目担当教員対象)結果の共有を行った。</li> <li>・TOEFL ITP の無料受験を6月8日、11月9日の計2回実施し、1507名の申込みを受け、981名が受験した(2019年度より、申込方法を先着順から抽選に変更)。</li> </ul>
2020年度	<p>■1(4)④ ※学生の語学レベルの測定・把握、向上のための取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2021年度新入生を対象に、総合政策学部を除く13学部において入学前プレースメントテストとして GTEC の受験を課し、全学部において習熟度別クラス編成を実施した。</li> <li>・全学的なアチーブメントテストを複数学年に跨り実施した。全学 TOEIC としては、総合政策学部を除く1年生、総合政策学部と国際学部を除く2年生、および国際学部3年生を対象に実施した。また、総合政策学部では独自に1年生対象に GTEC・2年生対象に TOEFL ITP を実施した。</li> <li>・全学英語リメディアルクラスとして、6学部(神・社会・法・経済・商・理工学部)において、春学期・秋学期それぞれ、入門英語 IA×10クラス、入門英語 IB×10クラス、入門英語 IIA×10クラス、入門英語 IIB×10クラス(年間計80クラス)を開講し、計439名(神:10名、社:49、法:141名、経:118名、商:71名、理:50)が履修した。</li> <li>・全学英語教育FD部会を4月25日、5月7日、5月22日、6月22日、10月5日の計5回開催し、各学部の英語教育に関する情報共有、および能力別クラス編成やプレースメントテストの成果について検証し、その結果の共有を行った。</li> <li>・TOEFL ITP の無料受験を8月4日、9月5日、10月31日の計3回実施し、1296名の申込みを受け、新型コロナウイルスの影響により受験キャンセルの申し出も多かったが、最終的に864名が受験した(2019年度より、申込方法を先着順から抽選に変更)。</li> </ul>
2021年度	<p>■1(4)④ ※学生の語学レベルの測定・把握、向上のための取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2022年度新入生を対象に、総合政策学部を除く13学部において入学前プレースメントテストとして GTEC の受験を課し、全学部において習熟度別クラス編成を実施した。</li> <li>・全学的なアチーブメントテストを複数学年に跨り実施した。全学 TOEIC としては、総合政策学部を除く1年生、総合政策学部と国際学部を除く2年生、および国際学部3年生を対象に実施した。また、総合政策学部では独自に1年生対象に TOEFL ITP(オンライン)・2年生対象に GTEC を実施した。</li> <li>・全学英語リメディアルクラスとして、6学部(神・社会・法・経済・商・理工学部)において、春学期・秋学期それぞれ、入門英語 IA×10クラス、入門英語 IB×10クラス、入門英語 IIA×10クラス、入門英語 IIB×10クラス(年間計80クラス)を開講し、計467名(神:4名、社:60、法:149名、経:133名、商:66名、理工:29名、理:7名、工:11名、生命環境:8名)が履修した。</li> <li>・全学英語教育FD部会を4月15日、6月21日、10月14日、11月25日の計4回開催し、アチーブメントテストやプレースメントテストの成果について共有・検証し、第4回では「各学部の英語教育の取り組みや習熟度別クラス分けの現状とその成果」をテーマに各学部からの発表・意見交換を行った。</li> <li>・TOEIC 対策用 e-learning 教材を、春学期に1,000名(申込当選者:792名(落選者:115名)、SBE Basic/TOEIC 履修者:208名)、秋学期に904名(申込当選者:697名、SBE Basic/TOEIC 履修者:207名)に提供した。</li> <li>・TOEFL ITP の無料受験を6月26日、8月4日、10月30日の計3回実施し、909名が受験した。1,694名の申込みがあったが、2019年度より申込方法を先着順から抽選に変更しており、新型コロナウイルスの影響による受験キャンセルの申し出も多く、結果的に1,000名を割ることとなった。</li> </ul>

## 5. 今後の課題及び方向性

2018年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2017年度に引き続き、総合政策学部を除く10学部において入学前プレースメントテストとして GTEC を実施し、全学部において習熟度別クラス編成を実施する。入学前プレースメントテストの実施・運営については、言語教育研究センターで取りまとめる。</li> <li>・また下位層を対象としたリメディアルクラスを開講し、言語教育研究センターで実施・運営を行う。</li> <li>・全学部1～3年生を対象としたアチーブメントテストの実施に向けて、具体的な実施スケジュールおよび実施体制について検討する。</li> <li>・2018年度秋学期の教研リプレースに伴い、機器更新を行う。</li> <li>・TOEFL 対策講座の実施については、(SGU)2-1-3「留学の事前・事後教育の充実」で実施・検討中の施策と連動させて、検討をすすめる。</li> <li>・2017年度に本施策全体のチェック機関として設置した「全学英語教育FD部会」において、各学部および言語教育研究センターにおける英語教育の取り組みや課題について共有する。また、プレースメントテストおよびアチーブメントテストのスコアデータを全学で共有し、分析・検証を行い、学生の英語運用能力向上のための施策を検討する。</li> </ul>
--------	---

2019 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2018 年度に引き続き、下位層を対象としたリメディアルクラス「入門英語」を開講すると共に、「入門英語」履修者の成績およびアチーブメントテストのスコアデータを比較・分析し、教育効果の検証を行う。</li> <li>・アチーブメントテストの上位学年における受験率向上のための施策の効果測定し、必要に応じてさらなる施策を検討する。</li> <li>・全学英语教育FD部会において、各学部および言語教育研究センターにおける英語教育の取り組みや課題について意見交換を行い、プレースメントテストやアチーブメントテストのスコアデータを分析・検証して、学生の英語運用能力向上のための施策を検討する。</li> <li>・TOEFL 対策講座の実施については、(SGU)2-1-3「留学の事前・事後教育の充実」で実施・検討中の施策と連動させて、検討する。</li> <li>・海外派遣数の増加に直接的に寄与する無料 TOEFL ITP 実施を拡充し、さらなる派遣数増に貢献する。</li> </ul>
2020 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2019 年度に引き続き、下位層を対象としたリメディアルクラス「入門英語」を開講すると共に、「入門英語」履修者の成績およびアチーブメントテストにおけるスコアデータを比較・分析し、「入門英語」の教育効果の検証を行う。</li> <li>・アチーブメントテストの実施時期変更(3年次春学期から2年次秋学期への変更)による受験率の変化を検証し、必要に応じてさらなる受験率向上のための施策を検討する。アチーブメントテストの実施・運営については、言語教育研究センターで取りまとめて行う。</li> <li>・全学英语教育FD部会において、各学部および言語教育研究センターにおける英語教育の取り組みや課題について意見交換を行い、プレースメントテストやアチーブメントテストのスコアデータを分析・検証して、学生の英語運用能力向上のための施策を検討する。</li> <li>・現行の英語 e-learning 教材の利用停止後も、大学として同じ水準の教育環境を全学生に提供できるよう、後継の英語 e-learning 教材を導入する。</li> <li>・TOEFL 対策講座の実施については、(SGU)2-1-3「留学の事前・事後教育の充実」で実施・検討中の施策と連動させて、検討する。</li> <li>・海外派遣数の増加に直接的に寄与する無料 TOEFL ITP 実施を拡充し、さらなる派遣数増に貢献する。</li> </ul>
2021 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2020 年度に引き続き、下位層を対象としたリメディアルクラス「入門英語」を開講すると共に、「入門英語」履修者の成績およびアチーブメントテストにおけるスコアデータを比較・分析し、「入門英語」の教育効果の検証を行う。</li> <li>・アチーブメントテストの実施時期変更(3年次春学期から2年次秋学期への変更)による受験率の変化を引き続き検証し、必要に応じてさらなる受験率向上のための施策を検討する。アチーブメントテストの実施・運営については、2021 年度に新設される4学部を含む13学部(総合政策学部除く)について、言語教育研究センターで取りまとめて行う。</li> <li>・全学英语教育FD部会において、各学部および言語教育研究センターにおける英語教育の取り組みや課題について意見交換を行い、プレースメントテストやアチーブメントテストのスコアデータを分析・検証して、学生の英語運用能力向上のための施策を検討する。</li> <li>・2020年度から利用停止となった e-learning 教材の後継の e-learning 教材を導入する。</li> <li>・TOEFL 対策講座の実施については、(SGU)2-1-3「留学の事前・事後教育の充実」で実施・検討中の施策と連動させて、検討する。</li> <li>・海外留学は新型コロナウイルス感染症拡大により不確実な状況ではあるが、海外派遣数の増加に直接的に寄与する無料 TOEFL ITP を実施し、さらなる派遣数増に貢献する。</li> </ul>
2022 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2021 年度に引き続き、下位層を対象としたリメディアルクラス「入門英語」を開講すると共に、「入門英語」履修者の成績およびアチーブメントテストにおけるスコアデータを比較・分析し、「入門英語」の教育効果の検証を行う。</li> <li>・アチーブメントテストの実施時期変更(3年次春学期から2年次秋学期への変更)や、新型コロナウイルスの影響によりオンライン式の受験に変更したことによる受験率の変化を引き続き検証し、必要に応じてさらなる受験率向上のための施策を検討する。アチーブメントテストの実施・運営については、13学部(総合政策学部除く)について、言語教育研究センターで取りまとめて行う。</li> <li>・全学英语教育FD部会において、各学部および言語教育研究センターにおける英語教育の取り組みや課題について意見交換を行い、プレースメントテストやアチーブメントテストのスコアデータを分析・検証して、学生の英語運用能力向上のための施策を検討する。</li> <li>・2021 年度から導入している TOEIC 対策用 e-learning 教材利用者の成果検証を行う。</li> <li>・TOEFL 対策講座の実施については、(SGU)2-1-3「留学の事前・事後教育の充実」で実施・検討中の施策と連動させて、検討する。</li> <li>・海外留学は新型コロナウイルス感染症拡大により不確実な状況ではあるが、海外派遣数の増加に直接的に寄与する無料 TOEFL ITP を実施し、さらなる派遣数増に貢献する。</li> </ul>

2023 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2022 年度に引き続き、下位層を対象としたリメディアルクラス「入門英語」を開講すると共に、「入門英語」履修者の成績およびアチーブメントテストにおけるスコアデータを比較・分析し、「入門英語」の教育効果の検証を行う。</li> <li>・2020 年度、2021 年度に新型コロナウイルスの影響によりオンライン方式を採用したことにより受験率が向上したことを受け、2023 年度は感染状況によらずオンライン方式を採用する。引き続き受験率の変化を検証するとともに、オンライン方式のスコアの傾向などを注視していく。実施・運営については、13 学部（総合政策学部除く）について、言語教育研究センターで取りまとめる。</li> <li>・全学英語教育FD部会において、プレースメントテストやアチーブメントテストのスコアデータを分析・検証して、学生の英語運用能力向上のための施策を検討する。</li> <li>・2021 年度から導入している TOEIC 対策用 e-learning 教材利用者の成果検証を行う。</li> <li>・TOEFL 対策講座の実施については、(SGU)2-1-3「留学の事前・事後教育の充実」で実施・検討中の施策と連動させて、検討する。</li> <li>・海外派遣者数の増加に直接的に寄与する無料 TOEFL ITP を実施し、さらなる派遣者数増に貢献する。</li> </ul>
---------	--

## 6. 学院総合企画会議の基本方針

2014 年度	—
2015 年度	<p>プレースメントテスト実施費用については、実行のための財源を別途検討中。</p> <p>アチーブメントテストについては、2016 年度は GGJ が継続中であり、GGJ 施策範囲内での計画を承認します。</p> <p>※ただし、2017 年度以降の GGJ 施策は見直しの可能性あり。</p> <p>教室機器更新費用については、一般事業費ガイド予算で対応してください。</p> <p>e-learning 教材アカウント購入費用については、計画の実施を見合わせます。</p> <p>TOEFL-ITP 実施費用については、申請どおり計画を承認します。</p>
2016 年度	<p>プレースメントテスト実施費用については、SGU 推進費で実施します(10/21 学部長会で承認)。</p> <p>アチーブメントテストについては、TOECI-IP6000 人×2 回で計上します。2/3 年生の受験率向上を明示してください。</p> <p>教室機器更新費用については、2018 年度以降の対応については今後の検討課題とします。</p> <p>e-learning 教材アカウント購入費用(全学部生対象)については、TOEIC の自習教材について SGU では対応外とします。</p> <p>e-learning 教材アカウント購入費用(全学開講科目対象)については、教科書と同様、学生の個人負担としてください</p>
2017 年度	<p>プレースメントテスト実施費用については SGU 推進費で対応します。</p> <p>アチーブメントテスト実施費用については全学部 2 回、受験率 90%、実施運営は外部委託を前提に計上しています。</p> <p>教室機器更新費用は、2018 年度以降は教研リプレイスで対応します。</p> <p>自習教材の整備は SGU 予算では対象外とします。</p>
2018 年度	<p>プレースメントテスト実施費用については、SGU 推進費で対応します。</p> <p>アチーブメントテストについては、全学部 2 回実施のままとします。2019 年度のみテスト実施時期の変更に伴い1～3年生が対象となります。定員に対しての受験率は1年生 110%、2 年生 80%、3 年生 55%で計上しています。なお、総合政策学部の 1 年生は例年どおり実験実習費での対応とします。</p> <p>教室機器更新費用については、教研システムリプレイスにより対応済みです。</p> <p>e-learning 教材アカウント購入費用(全学部生対象)については、自習教材は SGU 事業費の対象外とします。</p> <p>TOEFL-ITP 実施費用については、2018 年度並みとします。</p> <p>任期制 D については、今年度終了時点でリメディアルクラス設置に関する成果報告をお願いいたします。</p>
2019 年度	<p>プレースメントテスト実施費用については、SGU 推進費で対応します。</p> <p>e-learning 教材アカウント購入費用(全学部生対象)については、自習教材については SGU 事業費では支出しません。</p> <p>任期制教員 D については、2017 年度から強化している習熟度別授業の成果を 2020 年度前期中に検証し、グローバル化推進本部会議で報告してください。課題があればその解決策を立案してください。</p>

2020年度	プレースメントテスト実施費用については、2021年度よりSGU事業費で対応します。 e-learning教材アカウント購入費用(全学部生対象)については、これまでは自習教材を学生負担としていましたが、他大学の状況も鑑みて承認します。アカウント取得者を対象に、効果検証をしてください。
2021年度	プレースメントテスト実施費用については、1年生の受験者数を入学定員×1.1倍で算出していたところを1.04倍で算出しています。 アチーブメントテストについては、1年生の受験者数を入学定員×1.1倍で算出していたところを1.04倍で算出しています。 e-learning教材アカウント購入費用(全学部生対象)については、昨年度に引き続き予算化します。今後の検討のために、利用者分析や効果検証を実施して、グローバル化推進本部会議で報告してください。
2022年度	e-learning教材アカウント購入費用(全学部生対象)については、昨年度に引き続き予算化します。利用者分析や効果検証を実施して、グローバル化推進本部会議で報告してください。

## 7. Total Review の結果

### 【フェーズ I (2019~2021)】

レビュー結果	可否	備考 (継続:「フェーズ II に向けた課題」 廃止:その理由と今後の方向性)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・SGU 構想で定めている指標「外国語力基準を満たす学生数」をクリアしている。(点数の捕捉力向上が大きな要因)</li> <li>・ただし、英語運用能力の向上はかなり限定的であり、それが中長期の留学数を伸ばせない要因となっている。</li> <li>・さらなる英語能力向上をめざし、習熟度別クラスを実施している。</li> </ul>	<p><input checked="" type="checkbox"/> 継続</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 廃止</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・習熟度別クラスの継続的な成果検証の実施</li> <li>・入学後の徹底した英語教育の推進</li> <li>・抜本的な英語教育改革の検討</li> <li>・外部リソースの活用等</li> </ul>

### 【フェーズ II (2022~2024)】

レビュー結果	可否	備考 (継続:「フェーズ II に向けた課題」 廃止:その理由と今後の方向性)
	<p><input type="checkbox"/> 継続</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 廃止</li> </ul>	